

川上板金工業所（まんのう町）は、台風や積雪などの負荷に耐える金属製屋根材「アドバンス」を開発、販売している。今年のグッドデザイン賞も受賞し、頑丈さと低コストに加え、デザイン性を強みに販路拡大を図る。今後の展望を川上正城社長（50）に聞いた。

（報道部・堀田直孝）

● 屋根材新製品でグッドデザイン賞

―開発の背景は。

川上社長 2004年に県内を襲った台風が最初のきっかけ。東かがわ市で体育館の屋根が吹き飛び、街灯が曲がるなどの惨状を目の当たりにした。被害軽減を目指して新しい屋根材の開発を決意し、6年かけて旧モデル「クロザーブルーフ」を完成させた。さらに14年の関東地方の大雪で建物の屋根が多数倒壊したことを聞き、改良を重ねて「アドバンス」が誕生した。

ズーム
アップ

Zoom
Up

川上 正城氏

川上板金工業所社長

献できる。

―グッドデザイン賞を受賞した。

川上 屋根斜面のサイドラインにこだわり、屋根の表情が豊かになる点や、軽量で施工しやすい点も評価された。大手企業と並んで受賞することができ、身が引き締まる思いだ。今後も社会に役立つものづくり企業でありたい。

自然災害の軽減目指す

―製品への反響は。

川上 四国のほか、中国、近畿地方の工場や商業施設向けに営業展開しているが、低コストで屋根の強度が担保される点が評価されている。特に雪の多い山陰地方などで売り込みを強化する。テレビやラジオCMなどでも積極的に宣伝し、知名度を向上させたい。

―他社製品との差別化をどう図るのか。

川上 複数の特許技術を用いて、細部にこだわったオンリーワンの商品を作っている。ただ、他社も時代に応じた製品を次々と開発しており、遅れをとらずに改良を重ねたい。また、自社では鋼板メーカーなどから素材を購入し、自社工場の商品を製造しているため、他社に比べてコストパフォーマンスには自信がある。

―自然災害は深刻化している。

川上 近年は台風が大型化し、日本への上陸が増加傾向にある。地震災害も多発しており、特に東日本大震災以降は金属製屋根材の需要が高まっている。南海トラフ地震の発生も将来予想される中、自然災害への対策は急務だ。今後も安心安全を提供できる製品を生み出していきたい。

